

他機関の学び直し事業調査報告書

平成19年度に始まった文部科学省の委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」には、本校以外にも11高専の他、100を超える大学短大等の事業が採択されている。本校の事業を実施する上で参考となりそうな事業をいくつか視察してきたので、それら事業の特徴を以下に記す。

1) 長野高専… 事業の名称「地域ニーズに対応した工学・技術基礎教育支援プログラム」

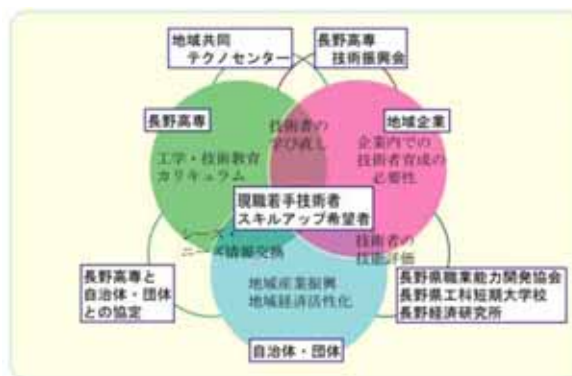
訪問日時： 平成20年2月13日 15:00～19:00

訪問者： 工藤康紀, 藤本高德

対応者： 楡井雅巳氏（電子情報工学科教授）、藤澤義範氏（電子情報工学科准教授）、
中村天昭氏（コーディネーター）、宮下伸正氏（コーディネーター）

場所： 独立行政法人 国立高等専門学校機構 長野工業高等専門学校

- 15:00～17:30までは、「現代GPフォーラム 2008in 長野」の報告会に参加した。実は、この現代GPのテーマ「地域企業と連携した技術資格取得支援」が今回の学び直しのテーマ「地域ニーズに対応した工学・技術基礎教育支援プログラム」の出発の本になっているようだ。



- 長野高専では、以前から塩尻市との包括協定の準備が進んでおり、今回の「学び直し」の募集がある以前から、地域の中小企業との「組み込みソフト」の講座開講の話は出ていた。また、信州大学で同様な講座が設立されることになっており、その準備としても長野高専の話が進んでいた。
- 講師は、電子情報工学科の二人の先生が担当している。そのため、後期の時間割を作る段階から、講座を実施する曜日には授業を入れないように時間割を作った。
- 二人のコーディネーターを雇っているが、彼等は長野高専の卒業生であり、会社を定年退職した人で、高専のことや企業のこと詳しい人である。県内を南北の二地域に分けて二人で担当し、それぞれの地域の企業を回って要望を聞いたり、講座への参加を呼びかけたりしている。
- 講座のテキストは、藤澤先生が中心になり自前のものを作っている。ただし、基礎となるソフトは、日立のルネサスから購入し、それを分かりやすく編集したり、例題を入れたりして初心者でも分かりやすいものとしている。著作権の問題は相談し、クリアしているとのこと。
- この「学び直し」に実際に携わっている人間は数人であり、楡井先生が選任し校長から直接依頼してもらった。特に、環境都市工学科からは全くの素人の人を入れてもらった。この人は、講習用テキストが出来たときに、それを読んでもらって、テキストが分かりやすいものになっているかどうかをチェックする役目を果たしている。これにより、テキストは初心者でも分かりやすいものになった。1日分のテキストが100ページに及ぶこともある。
- 講習修了時の修得度の判定には、模擬テストを実施している。（ただし、修了証には点数等の記

入はしない。修了の事実だけを書く）修了証明書には、地域の長野県職業能力開発協会の協力を得て、長野高専校長名と開発協会長の連名で修了認定をしている。塩尻市との包括協定があったので、その辺りは、スムーズに進んだ。

- ・ 1万円の講座受講料を徴収しているが、受講者を派遣する企業にとっては、安いぐらいであり、3万円以下程度なら企業としても問題なく出せるようだとのこと。
- ・ 講座は平日に実施しているが、会社としてもその方が勤務の一部として考えることができ、土日に実施した場合の超勤手当の問題などを考えなくて済むので有りがたいとのこと。
- ・ 同じような講座を開講している地域の専門学校ではどのようなことを実施し、どの程度のことを実施しているかを知るために、学修講座の講師を担当する人が実際に専門学校の講習を受けてみて（参加費は学び直し予算から支出）、講師としてのノウハウを取得すると共に、講座のレベル確認等もすることができた。

2) 福井高専… 事業の名称「高専ものづくり塾 3D デザイン・設計講座—就職支援と企業人ブラッシュアップ—」

訪問日時： 平成20年2月21日 13:00～15:30

訪問者： 軽部 周 高橋健一

対応者： 加藤 省三氏（電子情報工学科 教授）

辻子 裕二氏（環境都市工学科 准教授）

場所： 独立行政法人 国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校

福井県鯖江市下司町 <http://himawari.ip.fukui-nct.ac.jp/>

学び直し講座における情報を得る為に、福井県の福井高専を訪問した。

福井高専では学び直しプログラムとして3次元CADの講座を開講している。

講習会スケジュール

メイン講師 2名

外部講師が1回分（1ヶ月）を受け持ち、交代制、補助として福井高専の教職員が就く。

実施回数 年4回 （19年度のみ3回）

期 間 1ヶ月 週4回（月、火、木、金）

合計16回

時 刻 18:00から2時間

さらに講座終盤、終了後に自立講座として復習講座を週1回設けている。



地域連携テクノセンターマルチメディア室（受講会場）

福井高専で3次元CADの需要があるのは特産であるメガネフレームの金型設計の為。よって受講者も社会人が多い。また定年された方の再チャレンジもある。初回は定員に対して2倍の応募があり、先着で受講者を絞ったそうです。受講者の多くは社会人なので遅刻早退は多い。

メイン講師を2名交代でしているので、理解度が深まるとの事。講座自体のリピーターも出ている。成績証明方法は校長名の修了証書で行う。厳密に定めてはいないが半分以上の出席があれば発行し

ている。

講座内容としては外部講師を呼び、講師の既存の講座を学び直し講座として実施している。

外部講師にメイン講師を任せている理由は、負荷を減らす事、教職員も補助として教えながら勉強できる等を考慮している。

3) 明石高専… 事業の名称「結婚・出産後に社会復帰する女性のためのC A D技能習得プログラム」

訪問日時： 平成20年3月5日 10:00～12:00

訪問者： 亀野辰三

対応者： 檀 和秀氏 都市システム工学科教授
鍋島康之氏 都市システム工学科准教授
渡部守義氏 都市システム工学科助教
須田和昭氏 学生課長
河野氏 教育支援係長

場所： 独立行政法人 国立高等専門学校機構 明石工業高等専門学校
兵庫県明石市魚住町西岡 679-3 (〒674-8501)

- (1) 応募の背景・動機
- (2) 運営体制・組織
- (3) 事業内容
- (4) その他

【応募の背景・動機】

- ・ 明石高専都市システム工学科では、平成17～18年度にかけて都市システム工学科のカリキュラムについて全卒業生対象にアンケート調査を実施し、その結果、在学中の科目では「C A D教育」が最も高い評価が得られた。学科としてC A D教育に自信を得た。
- ・ 本プログラムの中心的役割を果たした鍋島准教授の独自のネットワークで、大学・高専卒業生で、出産後に女性復帰したいと考えるかなりの層が存在することが分かっていた。
- ・ そこで、結婚・出産後に社会復帰したいと願う女性をターゲットにして、学科で教育ノウハウを有するC A D教育をすれば採択される可能性が大きいと判断した。

【運営体制・組織】

- ・ 明石高専では、全校的な応募ではなく、学科単独で応募する傾向があり、本プログラムも都市システム工学科単独で応募した。
- ・ したがって、運営組織は学校全体的なものではなく、都市システム工学科の上記対応者の3名のみで運営している。(応募にあたっては、学生課教育支援係がサポートした)

【事業内容】

- ・ 初心者コースと経験者コースの2コースを開設し、定員は各々5名である。
- ・ 応募者は、初心者コースに17名、経験者コースに12名あり、抽選で初心者コースは8名、経験者コースは、定員どおり5名とした。



都市システム工学科コンピュータ室(受講会場)

- ・ 受講期間は、初心者コースは、平成19年10月20日（土）～平成20年3月8日（土）までの週1回、10：30～12：00までの計15回実施。
- ・ 経験者コースは、平成20年1月19日（土）～平成20年3月8日（土）まで週1回、13：00～14：30、14：40～16：10までの計8回実施。各々のコースとも3月15日（土）に修了証書授与を行う。
- ・ 講師は、初心者コースには同校OBの女性（建設コンサルタント勤務）があたり、経験者コースには、民間の専門学校の女性に委嘱した。その他、初心者コースには、教員が2名とTA（学生）2名がサポートしている。経験者コースには教員1名とTA（学生）2名がサポート。したがって、講座が始まると、教員はほとんどタッチせずに、外部講師とTAで運営している（教員の負担軽減のため）。
- ・ 公募は、神戸新聞の他に、ポスター、チラシを配布した。
- ・ 受講会場は、都市システム工学科2Fのコンピュータ室である。
- ・ 修了資格の認定が難しいので、同校では、受講者にCAD利用技術者2級試験を受検するように指導している。
- ・ 受講料は1万円を徴収している（無料にすると、途中脱落者が出る恐れがあるということから）。
- ・ 受講料の中から、USBメモリーを購入し、受講者に渡している。供用パソコンのため、外部の受講者はすべてUSBメモリーでデータ保存をさせている。
- ・ これまで実施してきて大きなトラブルはなかった。

【評価体制】

- ・ 評価体制は、特に外部の方を入れた委員会方式は採用していない。同校にあるテクノセンターで行うことにしている。大分高専のような外部の有識者を交えた評価会議を大変高く評価していただいた。

【その他】

- ・ 明石高専には、大分高専のような企画室はなく、外部資金への応募は、教育関係であれば「教育支援係」が、学生関係であれば「学生支援係」が担当している。「学び直し」は、“教育”がついているから「教育支援係」で担当している。公開講座、出前授業等の担当も「教育支援係」である。

4) 神戸女子大学… 事業の名称「子育てに一段落した女性やペーパーティーチャーの家庭科教員・臨時講師への道を拓く」

訪問日時： 平成20年2月20日 13：00～

訪問者： 清武博文、前 稔文

対応者： 中尾友則教授、亀治中吉男氏

場所： 神戸女子大学教育センター

報告内容

- ・ 再チャレンジ支援講座の見学：「パソコン(7)」
- ・ 神戸女子大における「学び直し」教育の運営体制および組織について
- ・ 事業の内容について



○再チャレンジ支援講座

- ・ 当日は、Excel の講座を実施しており、受講者 33 名、講師 1 名（男性）とサポートスタッフ 1 名（女性）の 2 名（情報技術学院という専門学校の教員）であった。
- ・ 講座の概要は、「キャリアデザインの必要性」、「企業の求める求人像」、「自己分析」、「よい履歴書の書き方」、「女性の知っておきたい労務知識」、「ビジネスマナー」、「接遇訓練」、「パソコン」で、90 分授業を 32 コマ、定員 40 名、受講料 7,000 円としている。7000 円は教材用であり、出席を促すためにも取るほうが良いと判断したとのこと。「パソコン」は全 15 回を実施し、情報技術学院に講座内容および実施体制の全てを任せている。実施内容としては、ワード、エクセル、インターネットの利用・活用である。なお、講師料は時間給とし、パソコンは専門学校からの持ち込みとしている。
- ・ 情報技術学院に全て任せてあるため、神戸女子大では、パソコンの講座に対しては何も関与していない。120 万で請け負ってくれたとのことである。
- ・ 情報技術学院は、ハローワークの 3 ヶ月無料講座を請け負っているとのこと。
- ・ 「パソコン操作」以外の講座を設けている理由として、マナーや敬語の使い方等の接遇を加えており、社会に出て行くための心構えとして必要であると考えたためである。

○運営体制・組織

- ・ 運営に関する委員会を次の 4 つの機関と共に組織している（これまでに 4 回開催）。
 - 情報技術学院（前掲）
 - 男女共同参画センター（神戸市、西宮市）：女性が多く出入りしているところ
 - 生きがいしごとサポートセンター：NPO の仕事の立ち上げを支援している
 - 地域のキャリアアドバイザー
- ・ 神戸女子大においては、キャリア教育を行なう部署があり、亀治中さん自身もキャリアアドバイザーの資格を取得している。また、社会人の教養講座をオープンカレッジと称して開講しており、キャリアサポートを目的としている。
- ・ こういった学生以外の社会人を対象とした講座の開講は、地域と連携する必要がある、ハローワークが協力的で最も良いという意見が得られた。

○事業内容

- ・ 神戸女子大では、子育ての終わった主婦を主たる対象者としており、企業が PC を導入し始めた頃（H10 年前後）に退職した 37～45 歳の女性を想定しているとのこと。したがって、土日や夜ではなく家族が居なくなる平日の昼間に開講日を設定している。
- ・ 広報として、HP はもちろんのこと、リビング誌の掲載や地下鉄でのポスター広告も行なった。特に効果的であったものは新聞広告であり、新聞社の協力も得られ 1 面に事業内容等を掲載してもらえた。
- ・ 募集 40 人に対して、応募者は約 130 名あり、選定基準として本来の趣旨である「再就職」ということを重要視したとのこと。40 名の内訳は、フリーター 8 名、母子家庭の母親 7 名、主婦 25 名であり、年代別の内訳としては、20 代 7 人、30 代 10 人、40 代 22 人、50 代 1 人である。
- ・ ニートやフリーターに関して、ニートの表現が否定的に聞こえるのでフリーターのみを対象とした。ニートは専門家でないと対処出来なく、悪くすれば状況を悪化させるので簡単にはできないと考える。
- ・ フリーター 8 人中の 1 人は、「この講座はきつい。自分でやる」と言い出している。一方で、過

去にいじめ・不登校の経験を持ち1年遅れで高校卒業した1人が意欲的に取り組んでいる。

- ・ 前述の通り、神戸女子大にはキャリア教育関連の部署があり、基本的構想もあったため、これといった事前調査やアンケート等は実施していない。また、各組織との連携による運営であるため、平日開講としても何も支障はないとのこと。
- ・ 懸念していることとして、受講辞退や家族の病気・介護などで欠席・遅刻者の増加がある。そういった場合への対応が困難であり心配であるとのこと。なお、大学という視点から全体の75%以上出席すれば修了証を発行する。技術やマナーの習得レベルに関しては、各機関の実績等から相応のレベルの内容を講義していると思われるので75%以上の出席で修了でも問題ないだろうとのこと。ただし、修了証の効力として、周囲からの認知の確保は必要であると考え。その点については、神戸女子大におけるキャリア教育の実績もあり、ハローワークからの信頼もあるので、現在のところ問題はなさそうである。
- ・ 駅から徒歩で10分の場所にあり、写真のような立派な看板が門の傍に作ってあった。将来的には屋上にも看板を作りたいと言われていた。

他高専等事業の調査報告まとめ

学校名	事業の名称	対象者、人数	実施回数 時間数等	実施曜日 時間等	受講料	講師等	修了証明・修了 認定
大分高専	IT技術を中心とした社会人・ニート・フリーター向け再チャレンジプログラム	再就職を求める社会人（主婦、ニート、フリーター等を含む）10名	各講座2時間10回、計20時間	土曜日2時間、月4回	無料	内部講師（本校技術センター職員、一部外部講師も）	学修成果履修証明、本校独自の模擬試験を実施
長野高専	地域ニーズに対応した工学・技術基礎教育支援プログラム	主に企業から派遣されてくる人、10人	1日に午前午後各3時間、3ヶ月にわたり合計5日間、延べ30時間	平日（金曜日）に実施、1日午前午後で6時間	1万円	メイン講師1名、補助講師1名でいずれも長野高専の教員	修得度の判定に模擬テストを実施。ただし、修了証には修了の事実だけ記載。
福井高専	高専ものづくり塾3Dデザイン・設計講座—就職支援と企業人ブラッシュアップ—	社会人一般（定年後の再チャレンジの人もいる）	1回2時間、週4回×4週、計16回で修了。（以上を年間4回実施）	月、火、木、金 18:30～20:30	3千円	メイン講師は外部講師2名で月ごとに交替する補助講師は高専の教職員	校長名の修了証書、出席回数の半分以上で発行
明石高専	結婚・出産後に社会復帰する女性のためのCAD技能習得プログラム	初心者コースと経験者コースの2コースを開設し、定員は各々5名	初心者コース：土曜日の10:30～12:00に、6ヶ月間に合計15回	経験者コース：土曜日13:00～14:30と、14:40～16:10、3ヶ月間に合計8日間。	1万円	初心者コースには同校OBの外部講師（女性）1名、経験者コースには、外部講師の女性1名（教員が2名とTA（学生）2名がサポート）	修了資格の認定が難しいので、受講者にCAD利用技術者2級試験受検するように指導
神戸女子大学	子育てに一段落した女性やパーティーチャーターの家庭科教員・臨時講師への道を拓く	子育ての終わった主婦を主に対象者とし、退職した37～45歳の再就職希望の女性を想定。40名。	90分を32コマ実施	平日の昼間	7千円	外部講師1名、外部補助者1名（女性）	全体の75%以上出席すれば修了証を発行